

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02376

研究課題名(和文) 東アジアの視野からみる和漢の「文」の学術文化史研究

研究課題名(英文) East Asian Perspectives on the History of Scholastic Culture of Sino-Japanese Letters

研究代表者

河野 貴美子 (KONO, Kimiko)

早稲田大学・文学大学院・教授

研究者番号：20386569

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：前近代から近現代に至る「文」と「文学」の変化を検証し、現在の人文学が抱える問題の本質に迫ること、また日本及び東アジアの「文」学の意義と可能性を追求することを目指し、以下の3項目を柱として研究を実施した。

1. 日本の学術文化史を「文」の概念から捉え直す研究をWiebke DENECKE教授と連携して行い、その成果を『日本「文」学史』全三冊として刊行した。2. 古注釈書の研究と共に、和漢の古典籍の研究を進め北京大学中国語文学系と連携して中日古典学ワークショップを開催した。3. 近代初期の日中の図書館の蔵書形成と目録分類について北京での調査を基に分析を進め、その成果を口頭発表や論文により公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「人文学の危機」ということが叫ばれる今、近代以前の日本に形成展開していた和漢の「文」の学問世界を改めて捉え直し、近現代に至る「文」や「文学」の変遷を明らかにすべく刊行した『日本「文」学史』全三冊は、現在の「人文学」が抱える根本的な課題と共に、「文学」の意義や可能性に関する問題について広く呼びかけることを期して編纂したものであり、国内外の関連の研究者から多くの反響が得られた。またワークショップの開催を通じて、国際的な共同研究を実現できたことも本研究の大きな成果である。

研究成果の概要(英文)：Investigated the transformation of “letters” and “literature” from the premodern to modern period, the problems the humanities currently face, and the significance and potentiality of “letters” in Japan and East Asia while centering research on these three pillars: (1) Conducted research with Professor Wiebke Denecke of Boston University that repositions the history of Japanese scholastic culture from the concept of “letters” and, together, conceived and published the three-volume A New History of Japanese “Letterature” (2) Advanced research on Sino-Japanese classics and old commentaries, and held workshops on the study of Sino-Japanese premodern texts with Peking University’s Department of Chinese Language and Literature (3) Advanced analysis of early modern Japanese and Chinese libraries’ curation of collections of books and cataloguing classification based on field work in Beijing and officially announced these results through presentations and articles

研究分野：和漢比較文学、和漢古文献研究。

キーワード：「文」の概念史 国際研究者交流 東アジア学術文化史 和漢古文献 古注釈書 日中近代図書館 図書分類法

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、「人文学の危機」ということが盛んに叫ばれている。しかしそこでいう「人文学」とは、近代以降に作られた枠組みであり、いわば新しい「伝統」にすぎない。人文学や文学、文化といった概念は、私たちの思考を支え育む重要な要素でありながら、実のところその意味や概念は、一般においては極めて曖昧にしか捉えられていないのではないかと。前近代において「文」とは、人が生み出すさまざまなことば、事象、もの、ことなど、いわば文化と学知の総体を指す語として存在していた。ところが「近代化」が進むにつれ、かつて東アジアに展開していた「文」の概念、及びその成果たる書物の世界は、哲学・史学・文学を核とする枠組みに解体されてしまった。

近代人文学は、数々の成果を確かに達成してきた。しかし今後、人文学が未来に向けていかなる道を進むべきかということは、常に検証、検討されてしかるべきであろう。そこで本研究は、東アジアの伝統の(哲・史・文の枠に切り分けることのできない)「文」の概念に再度スポットを当て、それを21世紀の現在に改めて引き出してみることによって、文学や人文学の果たし得る役割を見直し、画期をひらくことができるのではないかと構想した。

また日本の「文」についてみると、近代以降に生じた大きな転換の結果、主として和文こそが国文学であるとみなされる一方、日本の「文」と学問を和文と共に支えてきたはずの漢文の知は急速に立場を失っていった。しかしながら振り返ってみれば、日本の学問は常に和漢のことばと「文」への追究を基盤としていたのであり、そうした先人の学知の蓄積があったことは、改めて広く知られるべきではないか。日本漢詩文や和漢の「文」への注目、また日本に伝存する和漢の古典籍に対する海外の関心は高まりを見せている。そうした学界の動向も見えつつ、本研究は、日本の学術文化史を「文」の概念によって捉え直し、東アジアとのつながりの中でそれを検討し、「文」の意義と可能性を改めて追究すべきではないかとの問題意識を掲げ、開始した。

2. 研究の目的

本研究は、近代以前の日本に形成展開していた和漢の「文」の学問世界の実情を改めて捉え直すと共に、近現代に及ぶ過程で日本そして東アジアの「文」や書物をめぐる学術文化にいかなる変化が生じたのかを明らかにすることによって、「人文学」が抱える問題の構造の本質に迫ることを目指したものである。

具体的には、(1)日本の学術文化史を「文」の概念を軸として捉え直す、(2)日本の学知を支えてきた和漢の典籍と古注釈書を通して前近代の学問の実相を辿る、(3)近代初期の日中の図書館の蔵書形成と目録分類の変遷を調査分析する、以上の3つの柱からのアプローチにより、日本ひいては東アジアの「文」学の意義と可能性を追究することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、研究代表者と研究分担者、海外共同研究者が協同して研究を進め、その研究活動は、研究代表者が所長を務める早稲田大学総合研究機構プロジェクト研究所「日本古典籍研究所」が統括する体制をもって行った。

まず、(1)日本の学術文化史を「文」の概念を軸として捉え直す研究は、『日本「文」学史 第二冊「文」と人びと 継承と断絶』、『同 第三冊「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す』の刊行に向けての企画を進め、編集のためのワークショップを開催し、検討を十分に重ねたうえで公刊することとした。また、「文」の学術文化史研究を立体的に構築していくため、(2)和漢の典籍と古注釈書、及び(3)近代初期の日中の図書館の蔵書形成と目録分類の変遷について、有効な考察対象を選定し、実見実地調査を行い、資料の整理分析を進め、翻刻資料やデータを作成し、論文を発表していくこととした。

4. 研究成果

(1)日本の学術文化史を「文」の概念から捉え直す研究

研究の主な成果 研究協力者(海外共同研究者)であるボストン大学 Wiebke DENECKE 教授と連携し、研究代表者と研究分担者が共同研究を行い、『日本「文」学史 第二冊「文」と人びと 継承と断絶』(河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則・谷口眞子・宗像和重編、勉誠出版、2017年)および『日本「文」学史 第三冊「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す』(河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編、勉誠出版、2019年)を刊行した。『日本「文」学史 A New History of Japanese "Literature"』全三冊シリーズは、2015年に刊行した『日本「文」学史 第一冊「文」の環境 「文学」以前』(河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則編、勉誠出版)に続くものであり、三冊で総勢述べ100名の執筆者の協力を得て完成できたものである。第二冊は、日本の古代から近代の入口までを見通しつつ、「文」と人びととの関係を、「文の発信者 文の人、文と人」、「社会における文の機能と文人の働き」、「文の受信者 文を受けとめつなぐ人」、「文の人と媒体 文を伝えるメディア」という角度を軸として詳しく描き出すものとした。また第三冊は、東アジアにかつて共有されていた「文」の概念の変容と、現在の文学世界への転換を、東アジア全体の問題として検討すべく、「【近世化】 社会の変化と「文」の変革」、「【近代化】 東アジアの「文」から「文学」への道」、「【現代の「文学」】 文学の現在と人「文」の将来」の三部構成とした。いずれも、従来の歴史区分や既存の「日本文学史」とは異なる角度から日本の「文」の世界の変化や転換を見通すものであり、とりわけ目次構成の決定、そして執筆から編集に至る過程に多くの力を注いだ。具体的

には、執筆者が草稿を持ち寄り読み合わせとディスカッションを行う編集のためのワークショップを第一冊に続いて第二冊、第三冊それぞれにおいても開催し、従来にない新たな視野とパラダイムの構築を目指す本書の狙いについての議論を重ね、執筆者と問題意識を共有し、体系的な成果を打ち出すことに努力した。とくに第三冊（英語題：The Path from “Letters” to “Literature”：A Comparative History of East Asian Literatures）は、十の章と四つのコラムにおいてそれぞれ同テーマのもとで日本、中国、韓国の立場からの論を並列するという、これまでにない東アジア「文」学史の叙述形式を試みた。執筆者は日本、中国、韓国、欧米の計48名にのぼり、通訳を交えたワークショップを開催したこと、オンラインやメールによる会議などさまざまな方法を駆使した。そして研究代表者河野貴美子は研究協力者（海外共同研究者）Wiebke DENECKE 教授と各冊において序言、緒論、序章を共同執筆するなど、国際共同研究の一つの大きな実践となった。

得られた成果の国内外における位置づけとインパクト 「文」の概念史を辿るとともに、東アジアにおける「文」から「文学」への変化と現在の課題をみつめ、未来の「文学」の可能性を探るといふこの試みは、多くの執筆者の共鳴を得て完成し得たものである。本シリーズの刊行を通して、文学のみならず、哲学、史学など各領域を専門とする研究者のネットワークを広げることができ、さらには中国、韓国、欧米の研究者も多数執筆陣に加わり、国内外の多様な研究者による共同研究が実現できた。またワークショップには、執筆者以外の研究者や院生らも参加し、ディスカッションを行うことができた。そして、本シリーズが「文」と「文学」をめぐる新しい画期を目指すものとしての位置づけを得たことについては、例えば、2016年に『リポート笠間』61（笠間書院）で「理想の『日本文学史』」という特集が生まれ、『『日本「文」学史』 A New History of Japanese “Letterature” の試み 全三冊刊行に向けて』（Wiebke DENECKE、河野貴美子）の執筆機会を与えられたこと、また2017年には『熱風学術網刊』7（上海大学中国当代文化研究中心）に「“日本‘文’学史 A New History of Japanese Letterature” 与“域外漢学”」（Wiebke DENECKE、河野貴美子（孫世偉訳））と題して本プロジェクトの紹介文の執筆機会を与えられたこと、また『韓国日報』（2019年7月18日）に本シリーズ第三冊に関する記事が掲載されたことは、本研究課題の取り組みが国内外にインパクトをもたらした成果といえる。また研究代表者は、北京大学“東方大文学”系列講座（北京大学東方文学研究中心・北京大学外国語学院南亞学系主催、講演標題：「文」和「文学」：『日本「文」学史』的嘗試）や清華大学“北方絲綢之路文学・芸術的跨文化研究”系列学術講座（清華大学外文系文史学科群清華東亞文化講座、講演標題「『日本“文”学史』的構思」）の招待により本プロジェクトに関する紹介を求められ、講演を行った。また本プロジェクトについては、国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性 視覚／大衆／現代」（研究代表者：荒木浩教授）でも取りあげられ、2018年の共同研究会にて「『日本文学史』の今後100年 『日本「文」学史』から見通す」（Wiebke DENECKE、河野貴美子）と題して発表する機会も得た。こうした数々の反響を得て、それを糧としつつ、以下に述べるように本プロジェクトは今後のさらなる展開を目指して取り組みを継続している。

今後の展望 『日本「文」学史』全三冊の刊行を通じて改めて浮き彫りとなったのは、近代以降のいわゆる哲・史・文の枠組みを超えて、領域横断的に人文学の歴史と意味を再検証することの重要性であり、そしてまた、人文知や古典のありようについて日本のみならず、東アジア、さらには広く世界の状況と比較研究することの必要性である。そこでそうした新たなステップへと踏み出すべく、2019年6月23日には研究代表者とWiebke DENECKE 教授とが協同して企画し、ワークショップ「21世紀の人文知とは 世界の古典学から考える」を開催した。これは、日本、東アジア、インド、ペルシア、ヨーロッパなど世界各地の古典学の立場から人文知のあり方を比較検討するものであり、今後は論文集の刊行を目指して研究を継続していく予定である。また並行して、研究代表者はWiebke DENECKE 教授と共同して、日本における「文」の概念をめぐる通史の研究を継続し、日本の学知の歴史を「文」の概念の変遷や画期から描き出す著作を執筆していく予定である。

（2）和漢の典籍と古注釈書の研究

研究の主な成果 清原宣賢の抄物（『長恨歌并琵琶行秘抄』、『蒙求聴塵』）および具平親王の『弘決外典鈔』身延文庫蔵写本などの翻刻と研究を行い、中古中世の学問史やこれら古注釈書に関する学会発表や論文執筆を行い、研究成果を発信した。浙江大学王勇教授と協同して公刊した論文集『衝突と融合の東アジア文化史』（勉誠出版、2016年）はその成果の一である。また、研究協力者（海外共同研究者）である北京大学劉玉才教授との連携により、中日古典学ワークショップを開催できた。これは、和漢の典籍をめぐって日本古典学を専門とする研究者と、中国古典学を専門とする研究者とが共同して研究に取り組み、対話を行う試みとして計画したもので、第1回目は「中日古典学の交流と融合」を統一テーマとして、研究代表者、研究分担者を含む中日合わせて15名が参加発表するワークショップとして開催した（2018年11月10日、於早稲田大学、早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所・北京大学中国語言文学系・北京大学中国古典学中心主催）。当日は「文字訓詁と文献注釈」、「歴史思想と文献研究」、「写本・和刻本の版本研究」、「日本古典籍中の漢籍利用」を巡る口頭発表をもとに、参加者相互のディスカッションを中心に進行した。そして、第2回目の中日古典学ワークショップは北京大学にて、「中日古典文学関係研究」を主テーマとして開催した（2019年11月2日～3日、北京大学人文学部・北京大学中国語言文学系・早稲田大学総合研究機構日本古典籍研究所主催）。第2回ワークショップでは、

中日合わせて 18 名の研究者が参加発表したほか、日中双方の大学院生や若手研究者が発表およびディスカッションを行う青年学者論壇も合わせて開催した。古典学に携わる日本と中国の研究者の交流はこれまでも盛んに行われてきたものである。しかしながら、中国学に携わる中日の研究者、あるいは日本学に携わる研究者同士の交流はこれまでも少なからず行われてきたものの、中国における中国古典学研究者と日本における日本古典学研究者を結ぶ学术交流は必ずしも多くはなされてこなかった。本ワークショップは、中国と日本が有する古典学の知見を提供し合い、古典籍をめぐる学問の新しい展望や方法を見出ししていくことを目指して企画したものであり、これまで直接対面する機会がなかった研究者や院生、若手研究者が直接に意見を交わす場を設けることによって、古典学という「共通課題」をめぐる研究者の対話と、当該の研究領域のさらなる展開の可能性を拓く一つのプラットフォームを築くものとなった。

得られた成果の国内外における位置づけとインパクト 和漢の典籍と古注釈書に関する研究の成果論文を国内の刊行物に発表したほか、中国、台湾、アメリカなど海外で開催された学会や講演会でも発表や招待講演を重ね、中国における刊行物においては中国語による論文も複数発表することができた。また、2 回にわたり開催した中日古典学ワークショップは、研究協力者（海外共同研究者）である北京大学劉玉才教授をはじめとする北京大学中国語文学系との連携のもとに実現した、実質的かつ将来にもつながる成果である。とりわけ、2019 年の第 2 回ワークショップにおいて実施した「青年学者論壇」は当該領域の次世代研究者が相互に直接対面して学术交流を行い切磋琢磨しあうことができる貴重な機会であることが確認できたものであり、本ワークショップは、今後の継続開催を前提として、そのための共同研究体制を持続していくこととなっている。

今後の展望 中国古典籍と日本古典籍は密接な関係にあることは言うまでもない。2 回のワークショップによって培った礎をもとに、中日双方の古典学プロパー同士の学术交流によって今後の古典籍研究をさらに推進していくことを期して、北京大学劉玉才教授はじめ北京大学中国語文学系との連携のもと、中日古典学ワークショップを継続して開催していく予定である。またワークショップの成果としての論文集を中国および日本の双方で刊行していくことも計画している。なお、こうした活動と並行して、研究の基盤となる個別の古典籍研究、古注釈書研究も着実に進めていかななくてはならない。未公開資料の翻刻や研究といった基礎的な研究の継続とともに研究を進めていきたい。

（3）近代初期の日中の図書館の研究

研究の主な成果 本研究においては、主として北京大学図書館に所蔵されている同図書館、および燕京大学図書館の近代初期における蔵書形成や目録分類などに関する資料調査、また、中国科学院国家科学図書館に所蔵されている旧北京人文科学研究所所蔵図書に関連する資料調査を行い、データを収集、整理するとともに、考察の結果を口頭発表や論文によって発信した。中国近代図書館の蔵書形成や図書の目録分類の作成に際しては、日本の関連機関や学界が大きく関与している。図書と図書館の歴史は、学術文化史を映す鏡に他ならないものであり、「文」の概念が解体され、近代の新しい学問の枠組みへと移行していく中で、日本および東アジアが共に経験した変化と苦悩を図書館形成史から明らかにすべく、調査分析を行い、研究成果を発表した。具体的には、北京大学図書館においては、「国立北京大学図書館日文登録簿」、「北大図書部中文登録簿」、「燕京大学日文書籍総計簿」、「燕京大学漢文書籍総計簿」などの簿録や図書整理カードの調査を通して、主に日本関連書籍の蔵書形成について、書籍蒐集のルートやそこに関与した機関、人物なども含めて調査を行った。残されたデータ量は膨大なものであるが、そこに著録されている書籍の一一はみな当時の学問環境や両国の学术交流の足跡を示すものであり、近代の日中の複雑な歴史とともに、学術界の状況を今に伝える資料が豊富に残されていることが発見できた。また、中国科学院国家科学図書館においては、『北京人文科学研究所蔵書目録』正・続(1938～1939 年)に続く収蔵書の記録である「北京人文科学研究所蔵書目録・再続」を調査した。これもまた、膨大なデータを残すものであるが、そこに記録された書物の情報を通して、北京人文科学研究所とそこに関与した人びとの動きとともに、近代初期の図書館形成や古典籍研究のありようについても考察を行った。

得られた成果の国内外における位置づけとインパクト 中国においては近年とくに、近代以降の図書館の形成や歴史、蔵書の状況についての研究や成果が数多く報告されている。例えば、『清末民国図書館史料彙編』、同『続編』(国家図書館出版社、2014～2016 年)や『中国国家図書館館史資料長編(1909-2008)』全三冊(国家図書館出版社、2009 年)などである。本研究が行った調査、研究は、北京における大学や、日本が関与した図書館に限定したものではあるものの、中国における図書館、あるいは近代の学術史、さらには日本を含めた東アジアにおける近代アカデミズムの形成の考察に資する成果の一端を担うものと考えうる。そして本研究の成果は、『近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書』(甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編、勉誠出版、2019 年)などの論文集において論文化したほか、国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性 視覚/大衆/現代」平成 30 年度・第 2 回共同研究会でも「近代日中の図書館形成及び図書分類から考える古典研究の問題と可能性」と題して口頭発表を行う機会が与えられた。これら論文集や口頭発表を通して、日本や東アジア以外の地域の図書館形成とともに考察を展開していくことができる可能性や、現代における古典研究や古典のあり方といった学術史の問題にも深く関わる課題であることを明らかにすることができた。

今後の展望 本研究における調査が可能となったのは、北京大学図書館あるいは中国科学院国家科学図書館の便宜と協力を得られたからに他ならない。近代図書館の形成に関わるアーカイブ資料は、近現代の学術形成と深くつながるものであり、そうした資料を通しての研究成果への期待も大きいものと感じる。将来的には、中国の関連機関ともさらに連携をしながら、データの整理と分析、研究の進展につとめていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計59件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 日中の古典籍および学術文化史から考える中国学の方法論	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 渡邊義浩編『第十回日中学者中国古代史論壇論文集 学際化する中国学』（汲古書院）	6. 最初と最後の頁 pp.211-228
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 經學文獻與一條兼良的著作及學問	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 顧永新編『經學文獻學』（北京大学出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.814-829
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 240
2. 論文標題 『蒙求』 「靈運曲笠」をめぐって 日本中近世の抄物、注釈を通してみる謝靈運故事の展開とその意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 蔣義喬編『アジア遊学 六朝文化と日本 謝靈運という視座から』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.147-162
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 242
2. 論文標題 平安期における中国古典籍の摂取と利用 空海撰『秘蔵宝鑰』および藤原敦光撰『秘蔵宝鑰鈔』を例に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 榎本淳一・吉永匡史・河内春人編『アジア遊学 中国学術の東アジア伝播と古代日本』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.214-227
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 -
2. 論文標題 戦後現代の課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則(編)『日本「文」学史 第三冊 「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す』(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 pp.566-587
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 69-1
2. 論文標題 文学教育にかかわる私的経験から 翻訳された文学の可能性	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本文学』(日本文学協会)	6. 最初と最後の頁 pp.10-19
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 68-5
2. 論文標題 「従来厭離此穢土」 憶良が基づいた仏教言説	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『上代文学』(上代文学会)	6. 最初と最後の頁 pp.15-29
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 68-5
2. 論文標題 「養老改元詔」をめぐって	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『日本文学』(日本文学協会)	6. 最初と最後の頁 pp.2-11
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 240
2. 論文標題 日本の律令官人たちは自然を発見したか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 蔣義喬編『アジア遊学 六朝文化と日本 謝靈運という視座から』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.67-79
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫（〔革+斤〕慧卿・訳）	4. 巻 206
2. 論文標題 日本古代辺境意識与自然的発現	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『日語学習と研究』	6. 最初と最後の頁 pp.1-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 日本靈異記の典拠	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 瀬間正之編『古代文学と隣接諸学10 「記紀」の可能性』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 pp.190-219
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 『日本靈異記』における聖徳太子	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 阿部泰郎・吉原浩人編『南岳衡山と聖徳太子信仰』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.81-103
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 16
2. 論文標題 従佚存書看中国學術文化的傳播以及漢字漢文文化圈的形成意義	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際漢学研究通訊』（北京大学国際漢学家研修基地 / 北京大学出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.86-108
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 19
2. 論文標題 経学文献与一条兼良的著作及学問	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中国典籍与文化論叢』（鳳凰出版社）	6. 最初と最後の頁 pp.189-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 6
2. 論文標題 “Literature” (bungaku) and “The Novel” (shosetsu) as Book Classifications in Modern Japan and China	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌 WASEDA RILAS JOURNAL	6. 最初と最後の頁 pp.27-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 中国の近代大学図書館の形成と知の体系 燕京大学図書館を例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編『近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.330-356
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 12
2. 論文標題 空海在唐時代の啓について 古代東アジア外交における文筆をめぐる一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所 年報』（早稲田大学総合研究機構 日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 pp.14-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 -
2. 論文標題 戦後現代の文・史・哲と人文学の世界	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編『近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.129-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 12
2. 論文標題 『車持』覚書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所 年報』（早稲田大学総合研究機構 日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 pp.1-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 101
2. 論文標題 聞かれる物語と書かれた物語	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中古文学』（中古文学会）	6. 最初と最後の頁 pp.3-14
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 翻訳以上、翻案未満の『源氏物語』 町田康「未摘花」の場合	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 寺田澄江・加藤昌嘉・畑中千晶・緑川真知子編『源氏物語を書きかえる 翻訳・注釈・翻案』（青簡舎）	6. 最初と最後の頁 pp.251-266
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 明治期の「文学」研究とアカデミズム 国文学を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則編『近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.24-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 12
2. 論文標題 『篁物語』に関する断章 「右大臣のむすめ」への求婚をめぐる	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所 年報』（早稲田大学総合研究機構 日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 pp.31-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 -
2. 論文標題 『続日本紀』に関わる二つの上表文から編纂者の文筆をうかがう	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 瀬間正之編『古代文学と隣接諸学10 「記紀」の可能性』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 pp.163-189
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 -
2. 論文標題 『日本書紀』「推古天皇紀」に見える外交文書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 阿部泰郎・吉原浩人編『南岳衡山と聖徳太子信仰』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.65-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 12
2. 論文標題 延暦十七年十二月二十七日「渤海王（嵩リン啓）」（『類聚国史』巻一九三）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所 年報』（早稲田大学総合研究機構 日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 pp.70-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 -
2. 論文標題 南岳衡山における転生言説の展開 聖徳太子伝・絵伝にみる慧思三生・七生説と達摩東漸譚	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 阿部泰郎・吉原浩人編『南岳衡山と聖徳太子信仰』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.21-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 208
2. 論文標題 敦煌出土「新集文詞九経抄」と古代日本の金言成句集	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 荒木浩・近本謙介・李銘敬編『アジア遊学208 ひと・もの・知の往来 シルクロードの文化学』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.27-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 『和漢朗詠集』「仏事」と 仏伝文学	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小峯和明編『東アジアの仏伝文学』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.563-573
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 奈良（南都）仏教における人的交流・文化接触	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市編『日本古代交流史入門』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.174-190
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 -
2. 論文標題 日中近代の図書分類からみる「文学」、「小説」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小峯和明監修、金英順編『シリーズ日本文学の展望を拓く』第一巻「東アジアの文化圏」（笠間書院）	6. 最初と最後の頁 pp.196-209
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 -
2. 論文標題 文明（文字・ことば・思想）の移動 - 「天」概念を手掛りとして -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 鈴木靖民・金子修一・田中史生・李成市編『日本古代交流史入門』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 pp.389-409
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 -
2. 論文標題 狩谷エキ斎の『上宮聖徳法王帝説證注』	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『狩谷エキ斎 学業とその人』（会津八一記念博物館）	6. 最初と最後の頁 pp.54-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 -
2. 論文標題 近代日本の『科学』と『人文』概念 - 「哲・史・文」との関係 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『第9回東アジア人文学フォーラム - 東アジアにおける人文学の復興 -』（早稲田大学総合人文科学研究センター）	6. 最初と最後の頁 pp.69-86
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 66-4
2. 論文標題 『源氏物語』のつくられた「語り」 「閑屋」巻を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本文学』（日本文学協会）	6. 最初と最後の頁 pp.2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 3
2. 論文標題 物語叙述の主体 物語論における光源氏の発言を手がかりに	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『日本文学研究ジャーナル』（古典ライブラリー）	6. 最初と最後の頁 pp.50-63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 183
2. 論文標題 『童物語』の構成と言葉	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国文学研究』（早稲田大学国文学会）	6. 最初と最後の頁 pp.29-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 復刊26
2. 論文標題 『源氏物語』「野分」巻の叙述と「間主観性」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『平安朝文学研究』（平安朝文学研究会）	6. 最初と最後の頁 pp.36-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 -
2. 論文標題 懐風藻詩の表現から文化の共有圏をうかがう 二つの「春苑応詔」詩を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 藏中しのぶ編『古代文学と隣接諸学2 古代の文化圏とネットワーク』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 pp.492-521
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 11
2. 論文標題 懐風藻注釈稿 采女比良夫「春日侍宴 応詔」（四二）	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所年報』（早稲田大学日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 pp.76-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 -
2. 論文標題 「『心性罪福因縁集』 解題」等	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 阿部泰郎・末木文美士編『中世禅籍叢刊』第十二巻「稀観禅籍集 続」(臨川書店)	6. 最初と最後の頁 pp.769-787
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉原浩人	4. 巻 -
2. 論文標題 文殊菩薩の化現 聖徳太子伝片岡山飢人譚変容の背景	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小峯和明監修『シリーズ 日本文学の展望を拓く』第二巻「絵画・イメージの回廊」(笠間書院)	6. 最初と最後の頁 pp.112-131
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 116
2. 論文標題 日本文学史における『日本霊異記』の意義 その表現と存在	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『上代文学』(上代文学会)	6. 最初と最後の頁 28~45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 197
2. 論文標題 『源氏物語』古注釈書が引く漢籍由来の金言成句	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 李銘敬・小峯和明編『アジア遊学 日本文学のなかの 中国 』(勉誠出版)	6. 最初と最後の頁 216~221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 51
2. 論文標題 「鬼」を語り記すことの意味 『弘決外典鈔』からみる『日本靈異記』の「鬼」および内典・外典	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『説話文学研究』（説話文学会）	6. 最初と最後の頁 43～53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 199
2. 論文標題 幼学書・注釈書からみる古代日本の「語」「文」の形成 漢語と和語の衝突と融合	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 河野貴美子・王勇編『アジア遊学 衝突と融合の東アジア文化史』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 92～107
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 202
2. 論文標題 『日本靈異記』における『法華経』語句の利用	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 浅田徹編『アジア遊学 日本化する法華経』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 145～159
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 98
2. 論文標題 渤海との外交における文事と白居易	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『中古文学』（中古文学会）	6. 最初と最後の頁 41～52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 河野貴美子	4. 巻 10
2. 論文標題 渤海使関係文筆資料注釈稿・『続日本紀』天平十一年二月戊辰条所載「渤海王（欽茂）啓」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所年報』（早稲田大学日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 78～87
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 125-5
2. 論文標題 2015年の歴史学界・日本古代史回顧と展望	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『史学雑誌』（史学会）	6. 最初と最後の頁 37～40、61～63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 199
2. 論文標題 宇陀地域の生活・生業と上宮王家 - 菟田諸石を手がかりとして -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 河野貴美子・王勇編『アジア遊学 衝突と融合の東アジア文化史』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 16～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新川登亀男	4. 巻 -
2. 論文標題 橘諸兄	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 佐藤信編『古代の人物2 奈良時代』（清文堂）	6. 最初と最後の頁 155～184
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 ナラトロジーのこれからと『源氏物語』 人称をめぐる課題を中心に	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 助川幸逸郎・土方洋一・松岡智之・立石和弘編『新時代への源氏学 9 架橋する 文学 理論』（竹林舎）	6. 最初と最後の頁 96～122
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 -
2. 論文標題 『花桜折る少将』の切り詰められた世界 終末部における中將の乳母登場の意義など	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 横溝博・久下裕利編『堤中納言物語の新世界』（武蔵野書院）	6. 最初と最後の頁 49～68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 陣野英則	4. 巻 218
2. 論文標題 古典テキストの中の越境と交流 『篁物語』を例に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『文学・語学』（全国大学国語国文学会）	6. 最初と最後の頁 67～78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 199
2. 論文標題 唐僧惠雲の生物学講義 『妙法蓮華経釈文』所引「惠雲」の言説	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 河野貴美子・王勇編『アジア遊学 衝突と融合の東アジア文化史』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 34～45
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 50
2. 論文標題 唐僧惠雲の生物学講義・拾遺	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『古代研究』（早稲田古代研究会）	6. 最初と最後の頁 56～61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 181
2. 論文標題 『日本書紀』の「孝」「孝」をめぐる歴史叙述	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国文学研究』（早稲田大学国文学会）	6. 最初と最後の頁 1～10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高松寿夫	4. 巻 10
2. 論文標題 渤海使関係文筆資料注釈稿・『続日本紀』神龜五年正月甲寅条所載「渤海王（武藝）啓」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『早稲田大学日本古典籍研究所年報』（早稲田大学日本古典籍研究所）	6. 最初と最後の頁 55～68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計103件（うち招待講演 48件／うち国際学会 44件）

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 空海の「文」をめぐる一考察——『遍照發揮性靈集』にみる実践と思考
3. 学会等名 中古文学会 二〇一九年度春季大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 平安期における中国古典籍の摂取と利用：空海撰『秘蔵宝鑰』および藤原敦光撰『秘蔵宝鑰鈔』を例に
3. 学会等名 2019年度 東アジア知識人文学 国際学術大会 檀国大学校 早稲田大学共同学術大会「東アジアの知識交流のメカニズム：知識の生産と伝達」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 《世説新語》在日本的流傳論考
3. 学会等名 文本的潛力：中文寫本工作坊(中央研究院中國文哲研究所)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 奈良・平安期日本の学問・教育・課試
3. 学会等名 1075-1919年越南儒学科学百年回顧(ベトナム社会科学アカデミー)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 日本現存佛典古寫本の特點及其意義初探 以石山寺本《妙法蓮華經玄贊》寫本爲例
3. 学会等名 從中古到近代：寫本與跨文化研究 國際學術研討會(北京大學東方文學中心、京都大學人文科學研究所術數學研究会、加拿大英屬哥倫比亞大學佛學論壇、北京大學人文學部)（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 中国典籍古寫本在日本的傳承與闡釋 以《世說新語》爲例
3. 学会等名 首届中国文化研究國際論壇(中国社会科学院古代史研究所)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 寧波における遣明使の菟書活動初探
3. 学会等名 グローバルな視点からの浙江地域と日本の文化交流史シンポジウム(早稲田大学国際日本学拠点・中国寧波大学人文学与伝媒学院他)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 写本時代の書字と文学 『遍照發揮性靈集』を通してみる
3. 学会等名 北京大學人文論壇 "中日古典學工作坊" 第二屆學術研討會(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 The Literature and Calligraphy Introduced by Kukai
3. 学会等名 Centre for Japanese Research Lunchtime Lecture(Centre for Japanese Research、ブリティッシュコロロンビア大学)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 《日本“文”学史》の構思
3. 学会等名 “北方絲綢之路文学・芸術的跨文化研究”系列學術講座(清華大学外文系文史学科群 清華東亞文化講座)(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 古代、中世日本書法：形式、人物、故事
3. 学会等名 北京大学中文系 特邀專家講課系列
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新川登龜男
2. 発表標題 古代から『天皇』を考える
3. 学会等名 日本史研究会大会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 漢籍・漢詩文の知識を伝達する『源氏物語』
3. 学会等名 2019年度 東アジア知識人文学 国際學術大会 檀国大学校 早稲田大学共同學術大会「東アジアの知識交流のメカニズム：知識の生産と伝達」(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』「少女」巻における『文選』とのかかわり
3. 学会等名 北京大學人文論壇 "中日古典學工作坊" 第二屆學術研討會 (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 8世紀行政文書に見る漢籍受容
3. 学会等名 2019年度 東アジア知識人文学 国際學術大会 檀国大学校 早稲田大学共同學術大会「東アジアの知識交流のメカニズム：知識の生産と伝達」(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 8世紀半ばの日本における「江南」イメージ
3. 学会等名 グローバルな視点からの浙江地域と日本の文化交流史シンポジウム(早稲田大学国際日本学拠点・中国寧波大学人文学与伝媒学院他)(國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 8世紀日本の漢文語彙 「懷風藻序」をとおして
3. 学会等名 北京大學人文論壇 "中日古典學工作坊" 第二屆學術研討會 (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 聖徳太子の事跡と南岳衡山への飛翔
3. 学会等名 湖州師範学院外国語学院講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『熊野觀心十界曼荼羅』の絵解き
3. 学会等名 浙江工商大学東方語言文化学院聆聴專家的声音系列講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 世界最初の仏像と日本最初の仏像 印度から中国・朝鮮半島を経て日本へ
3. 学会等名 華僑大学外国語学院講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『往生拾因』院政期古写本・鎌倉期版本の諸問題
3. 学会等名 西安外国語大学教育部東北亜研究中心・西安外国語大学日本文化經濟学院主催 「東北亜漢文写本研究の過去与未来學術研討会 第五届写本論壇」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本最初の仏像 印度・百済から日本に渡る阿弥陀三尊像
3. 学会等名 西北大学日本文化研究センター主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 海の彼方から来る仏・神・王 中国・朝鮮・日本の伝承と展開
3. 学会等名 清華大学「北方系綫之路文学・藝術的跨文化研究」外国專家講学（3）連続講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本漢文学と句題詩・句題詩序 平安朝漢文学入門
3. 学会等名 清華大学「北方系綫之路文学・藝術的跨文化研究」外国專家講学（3）連続講演（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 裔然将来梅檀瑞像の思想・宗教的影響
3. 学会等名 浙江工商大学東方語言文化学院・東亜研究院・日本研究中心主催「東亜視域下的中日文化關係 以人物往来為中心」國際學術研討会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 敦煌資料と東アジア文化交流 浄土变相図と靈鷲山図をめぐる
3. 学会等名 清華大学「北方系綢之路文学・藝術的跨文化研究」外国專家講学（3）座談会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 白居易はなぜ平安朝文人に受容されたのか 仏教思想の側面から
3. 学会等名 北京大學人文論壇 "中日古典學工作坊" 第二屆學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 呉越・北宋の書籍交流と平安仏教・文学
3. 学会等名 湖州師範学院外国語学院講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本古代の藝と術 『新猿楽記』のめくるめく世界
3. 学会等名 早稲田大学日本宗教文化研究所・浙江工商大学東亜研究院・蔚山大学校人文大学日本語日文学科主催「東アジア文化交流 芸と術」国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 永観『往生拾因』研究の諸問題 全訳註への視座
3. 学会等名 第8回浄土学研究会公開講座（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 日本の古典籍および学術文化史から考える中国学の方法論
3. 学会等名 第10回日中学者中国古代史論壇 学際化する中国学 中国学発展の方法論の探求(一般財団法人東方学会、中国社会科学院歴史研究所) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 Translation and Reception in Kiyohara no Nobukata's Chogonka narabini Biwakohisho
3. 学会等名 日本アジア研究学会（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 近代日中の図書館形成及び図書分類から考える古典研究の問題と可能性
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性 視覚／大衆／現代」平成30年度・第2回共同研究会(国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性 視覚／大衆／現代」共同研究会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 ヴィーブケ・デーネーケ、河野貴美子
2. 発表標題 「日本文学史」の今後100年 『日本「文」学史』から見通す
3. 学会等名 国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性 視覚／大衆／現代」平成30年度・第3回共同研究会(国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性 視覚／大衆／現代」共同研究会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 ことばと知のパラダイムから考える「国風文化」
3. 学会等名 国書の会ミニシンポジウム 「国風文化」期の東アジアを考える(国書の会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 清原宣賢の抄物を通してみる漢籍の利用
3. 学会等名 中日古典学ワークショップ(早稲田大学日本古典籍研究所・北京大学中国語文学系・北京大学中国古典学中心)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 「文」和「文学」：『日本「文」学史』的嘗試
3. 学会等名 北京大学“東方大文学”系列講座 第七講(北京大学東方文学研究中心、北京大学外国語学院南亞学系)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 経書写本在日本的流伝、利用及文献価値
3. 学会等名 北京大学中国古文献研究中心系列學術講演（第八十九講）（北京大学中国古文献研究中心）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 新川登龜男
2. 発表標題 『日本書紀』の読み方～『天子』をめぐる～
3. 学会等名 中日古典学ワークショップ（早稲田大学日本古典籍研究所・北京大学中国語文学系・北京大学中国古典学中心）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 平安時代の物語文学とナラトロジー
3. 学会等名 日本文学と歴史的ナラトロジー（ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン アジア研究部日本センター）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 日本古典文学における「身」と「心」 『古今集』と『篁物語』の場合
3. 学会等名 国際シンポジウム 東北アジア人文学の新傾向（仁川大学校 孔子学院）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』「若菜下」巻の中国故事 不穩を示唆する方法
3. 学会等名 中日古典学ワークショップ(早稲田大学日本古典籍研究所・北京大学中国語文学系・北京大学中国古典学中心)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 さまざまに変容する『源氏物語』
3. 学会等名 文化講演会(鎌倉女学院高等学校)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 市川と万葉集 真間手児奈を中心に
3. 学会等名 市川稲門会総会(市川稲門会)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 8世紀日本で読まれた漢籍 『懷風藻』注釈作業をとおしてうかがえること
3. 学会等名 中日古典学ワークショップ(早稲田大学日本古典籍研究所・北京大学中国語文学系・北京大学中国古典学中心)(国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 「從來厭離此穢土」 山上憶良に基づいた仏教言説
3. 学会等名 シンポジウム「山上憶良と漢籍・仏典」(上代文学会)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 『日本書紀』に記された対百済文書外交
3. 学会等名 国際シンポジウム「古代史料に見る歴史と文学」(SGU創成支援事業 早稲田大学国際日本学拠点)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 仏教と日本文学
3. 学会等名 四川外国語大学特殊講義(於中国重慶市四川外国語大学)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 芥川龍之介の「五趣生死の図」 仏教的世界観の入門を兼ねて
3. 学会等名 湖州師範学院外国語学院講演会(於中国浙江省湖州市湖州師範学院)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本文化的源流
3. 学会等名 浙江工商大学「五洲講壇」講演会（於中国浙江省杭州市浙江工商大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 菅原道真と天神信仰
3. 学会等名 清華大学「清華歴史講堂」講演会（於中国北京市清華大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 神道の定義と本地垂迹
3. 学会等名 南京大学「南雍海外名家講堂計画」講演会（於中国江蘇省南京市南京大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 駢儷文と平安漢文学 勸学会の詩文を例に
3. 学会等名 南京大学人文基金・南京大学文学院・南京大学域外漢籍研究所連合主催講演会（於中国江蘇省南京市南京大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『宋史』日本伝髙然上表文の表現と背景
3. 学会等名 浙江工商大学東亜研究院主催「東亜漢文境外行紀行研究」国際ワークショップ（於中国杭州市浙江工商大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 敦煌莫高窟第420窟「法華経变」の靈鷲山と日本の靈鷲山図 シルクロードから『当麻曼荼羅』を経て『善光寺如来絵伝』へ
3. 学会等名 「北方系網之路文化遺産与21世紀」国際会議（於中国北京市清華大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 杭州西湖・廬山草堂と白居易 絵画の日本伝来をめぐって
3. 学会等名 中国美术学院文化遺産研究中心・設計芸術学系講演会「新設計史学系列講座」（於中国杭州市中国美术学院）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 「日本仏教」のはじまり 古代中世の認識をめぐって
3. 学会等名 日本佛教学会2018年度学术大会（於同朋大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 杭州奉先寺源清と日本天台本覚思想
3. 学会等名 浙江工商大学東方語言文化学院・杭州径山万寿禅寺禅宗文化研究院主催第四回「東アジアの文献と文学の中の仏教世界」国際シンポジウム（於浙江工商大学）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 唐代最後の訳経『大乘本生心地観経』と日本留学僧靈山三蔵をめぐる物語
3. 学会等名 寧波大学「李達三講堂」第四十四講（於中国浙江省寧波市寧波大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『心性罪福因縁集』の院政期写本と元禄版本の本文の差異
3. 学会等名 中日古典学ワークショップ(早稲田大学日本古典籍研究所・北京大学中国語言文学系・北京大学中国古典学中心)（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本の絵解きの歴史と展開
3. 学会等名 新時代中国日語教学・日本学研究新目標、新方略国際學術研討会暨中国日語教学研究會2018年度學術大會（於広東外語外貿大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 白居易と平安朝漢文学 文人貴族の受容の諸相
3. 学会等名 湖南大学外国語学院學術講座（於中国湖南省長沙市湖南大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 絵画・彫刻にみる地獄表現の諸相
3. 学会等名 湖南師範大学外国語学院學術講座（於中国湖南省長沙市湖南師範大学）（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 白居易と日本古代文学
3. 学会等名 止戈書院「中国伝統文化講座」講演会（於中国四川省眉山市洪雅県止戈文化国際交流中心）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本古代の「神道」の語義と本地垂迹説
3. 学会等名 南開大学日本研究院「2019年春日本思想史課程「原典日本神道思想史」特選講座（於中国天津市南開大学）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 中日“嘉言”集考
3. 学会等名 東亜漢籍与越南漢喃古辞書国際學術研討会(中国浙江財經大学人文与伝播学院)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 《源氏物語》古注釋書所引漢籍考
3. 学会等名 第二屆南京大学域外漢籍国際學術研討会(南京大学域外漢籍研究所、南京大学“中国文学与東亜文明協同創新中心”)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 『日本靈異記』における聖徳太子
3. 学会等名 名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター・早稲田大学日本宗教文化研究所主催 シンポジウム「南岳衡山と聖徳太子信仰」(於中国湖南省衡陽市南岳区衡陽南岳君雅洲際酒店)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 『蒙求』「靈運曲笠」をめぐって 日本中近世の抄物、注釈を通してみる謝靈運故事の展開とその意義
3. 学会等名 ワークショップ「謝靈運を中心とした六朝詩と日本文学」(北京師範大学東アジア文化センター・同大学外文系)(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 従佚存書立場所見の中国學術文化の伝播以及漢字漢文文化圈の形成意義
3. 学会等名 北京論壇2017 文明的和諧与共同繁荣 变化中的価値与秩序(北京大学 / 北京市教育委員会 / 韓国高等教育財団) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 経学文献与一条兼良の著作及学問
3. 学会等名 経学文献学国際學術研討会(北京大学中文系、北京大学中国古文献研究中心) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 聞かれる物語と書かれた物語
3. 学会等名 中古文学会 平成29年度秋季大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 『懐風藻』の「春苑 応詔」詩二首 比較によって見えてくるもの
3. 学会等名 上代文学会大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 『日本書紀』「推古天皇紀」に見える外交文書
3. 学会等名 名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター・早稲田大学日本宗教文化研究所主催 シンポジウム「南岳衡山と聖徳太子信仰」（於中国湖南省衡陽市南岳区衡陽南岳君雅洲際酒店）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 高松寿夫
2. 発表標題 日本上代の《辺境》意識と《自然》の発見
3. 学会等名 ワークショップ「謝靈運を中心とした六朝詩と日本文学」（北京師範大学東アジア文化センター・同大学外文系）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 菅原道真と天神信仰
3. 学会等名 湖州師範学院外国語学院講演会（於中国浙江省湖州市湖州師範学院）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 「神道とは何か」「神身離脱と本地垂迹」
3. 学会等名 早稲田松代塾第47回 平成29年度「東洋の宗教／思想」（於新潟県十日町市まつだいふるさと会館2階「常春ホール」）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 世界最初の仏像 中国・日本への流伝
3. 学会等名 湖南大学外国語学院講演会（於中国湖南省湖南大学外国語学院報告庁）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『心性罪福因縁集』法志「説法論議比丘」説話考 真福寺蔵 新出院政期写本の紹介を兼ねて
3. 学会等名 説話文学会平成二十九年度大会（於名古屋大学東山キャンパス野依記念学术交流館）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『江都督納言願文集』院政期・鎌倉期古写本をめぐる諸問題
3. 学会等名 南京大学域外漢籍研究所主催第二屆「域外漢籍研究國際學術研討會」（於中国江蘇省南京市南京大学國際會議中心）（國際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 達摩と慧思の対面 聖徳太子伝にみる達摩東漸譚の諸相
3. 学会等名 名古屋大学大学院人文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センター・早稲田大学日本宗教文化研究所主催 シンポジウム「南岳衡山と聖徳太子信仰」（於中国湖南省衡陽市南岳區衡陽南岳君雅洲際酒店）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『五趣生死輪廻』の変遷と日本における受容
3. 学会等名 敦煌研究院「莫高講堂」第七講（於中国甘肅省敦煌市敦煌研究院）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 呉越・北宋期の浙江仏教と平安朝仏教の交流 源信の動向を中心に
3. 学会等名 「浙江と東アジア 新史料と新視点」国際学術シンポジウム 浙江工商大学東方語言文化学院主催（於中国浙江省杭州市浙江工商大学東方語言文化学院）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 靈鷲山をめぐる画像と物語 『善光寺如来本地』の源流
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジア文化交流 画像と物語」（於韓国蔚山広域市蔚山大学校）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 The Formation of a Sino-Japanese Canon: Wakan Roeishu and its Legacy
3. 学会等名 Loose Canons : Value and Valuation in Japanese Engagements with Chinese Writing (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 渤海との外交における文事と白居易
3. 学会等名 平成二十八年度中古文学会春季大会 大会企画シンポジウム《平安朝文学と白氏文集》(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 Fiction and Truth: The Challenge to Kukai's Sango Shiiki
3. 学会等名 AAS-in-ASIA Conference, ASIA IN MOTION: HORIZONS OF HOPE (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 東アジアにおける漢籍の伝播と共同体の構築 日本と渤海の外交における文事を例として
3. 学会等名 渤海大学「多元視覚下亜州共同体意識的発現与共同体的建構」系列講座(一般財団法人ワンアジア財団プロジェクト)(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 中国古文献在日本的伝承
3. 学会等名 東北亜走廊研究院学术講座(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 Legend, Lexicon, Commentary: The Lotus Sutra in Japanese Letters
3. 学会等名 AJLS 2016 (Association of Japanese Literary Studies Conference: WORD/IMAGE/JAPAN) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 《北京人文科学研究所蔵書目録》中の「鈔本」研究初探
3. 学会等名 『日語学習与研究』雑誌社「日本漢文古写本の整理研究与中日学术交流史」第二屆写本論壇(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 清原宣賢所撰“抄物”与明代書籍
3. 学会等名 “明代的書籍与文学”国際學術研討会(寧波市天一閣博物館、復旦大学古籍整理研究所主催)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 河野貴美子
2. 発表標題 Japanophone Glosses (kuten) in Printed and Digitized Manuscripts
3. 学会等名 IMPAGINATION Forms, Media and Circulation of Writing and Publication International Conference in Comparative History of Philology (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 『源氏物語』のつくられた「語り」 「閑屋」巻を例に
3. 学会等名 日本文学協会 第71回(2016年度)大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 陣野英則
2. 発表標題 翻訳以上、翻案未満 町田康「未摘花」(源氏物語 九つの変奏)の場合
3. 学会等名 国際シンポジウム「源氏物語を書き変える：翻訳、註釈、翻案」(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本平安朝漢文学における禹の形象
3. 学会等名 紹興市委宣伝部・紹興市社会科学界聯合会主催第三屆「大禹与伝統文化」国際學術研討会(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 日本の絵解きの歴史と現状
3. 学会等名 浙江農林大学外国語学院日語系講演会(招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 白居易と平安朝漢文学
3. 学会等名 湖州師範学院外国語学院講演会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 聖徳太子の南岳慧思後身説・衡山取経譚の形成とその絵画化
3. 学会等名 「南岳慧思与日本聖徳太子」専門学術報告会（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 絵解きの歴史 古代から現代まで
3. 学会等名 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科主催、神奈川大学日本常民文化研究所・非文字資料センター・比較民俗研究会共催、2016年度第2回歴史民俗資料学公開講座（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『心性罪福因縁集』の院政期古写本と元禄版本
3. 学会等名 『日語学習与研究』雑誌社「日本漢文古写本の整理研究与中日学術交流史」第二屆写本論壇（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 『聖徳太子絵伝』 衡山取経・片岡山飢人譚図像表現の変遷と中世太子伝
3. 学会等名 早稲田大学日本宗教文化研究所・浙江工商大学東亜研究院・蔚山大学校日本語日本文化学科主催国際シンポジウム「東アジア文化交流 図像を中心に」(国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 吉原浩人
2. 発表標題 絵解きされる『当麻曼荼羅』
3. 学会等名 シンボル展「浄土憧憬」特別講演会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 河野貴美子・Wiebke DENECKE・新川登亀男・陣野英則(編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 632
3. 書名 『日本「文」学史 第三冊 「文」から「文学」へ 東アジアの文学を見直す』	

1. 著者名 甚野尚志・河野貴美子・陣野英則(共編著)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 415
3. 書名 『近代人文学はいかに形成されたか 学知・翻訳・蔵書』	

1. 著者名 柳井滋・室伏信助・大朝雄二・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎(校注) 今井久代・陣野英則・松岡智之・田村隆(編集協力)(その他)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 656
3. 書名 『源氏物語(五)梅枝 - 若菜 下』 岩波文庫 30-015-14	

1. 著者名 阿部泰郎・吉原浩人(共編著)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 340
3. 書名 『南岳衡山と聖徳太子信仰』	

1. 著者名 河野貴美子、宗像和重、谷口眞子、陣野英則、新川登亀男、Wiebke DENECKE	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 560
3. 書名 日本「文」学史 第二冊 A New History of Japanese "Literature" Vol.2	

1. 著者名 新川登亀男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 864
3. 書名 日本古代史の方法と意義	

1. 著者名 新川登亀男	4. 発行年 2018年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 103
3. 書名 漢字文化の成り立ちと展開（増刷）	

1. 著者名 東野治之・新川登亀男ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京国立博物館	5. 総ページ数 136
3. 書名 『法隆寺献納宝物特別調査概報XXXVIII 古今目録抄4』	

1. 著者名 河野貴美子・王勇編	4. 発行年 2016年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 199
3. 書名 アジア遊学199 衝突と融合の東アジア文化史	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	新川 登亀男 (SHINKAWA Tokio) (50094066)	早稲田大学・文学学術院・名誉教授 (32689)	
研究分担者	陣野 英則 (JINNO Hidenori) (40339627)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	高松 寿夫 (TAKAMATSU Hisao) (40287933)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究 分担者	吉原 浩人 (YOSHIHARA Hiroto) (80230796)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究 協力者	デーネーケ ヴィーブケ (DENECKE Wiebke)		
研究 協力者	劉 玉才 (LIU Yucai)		